

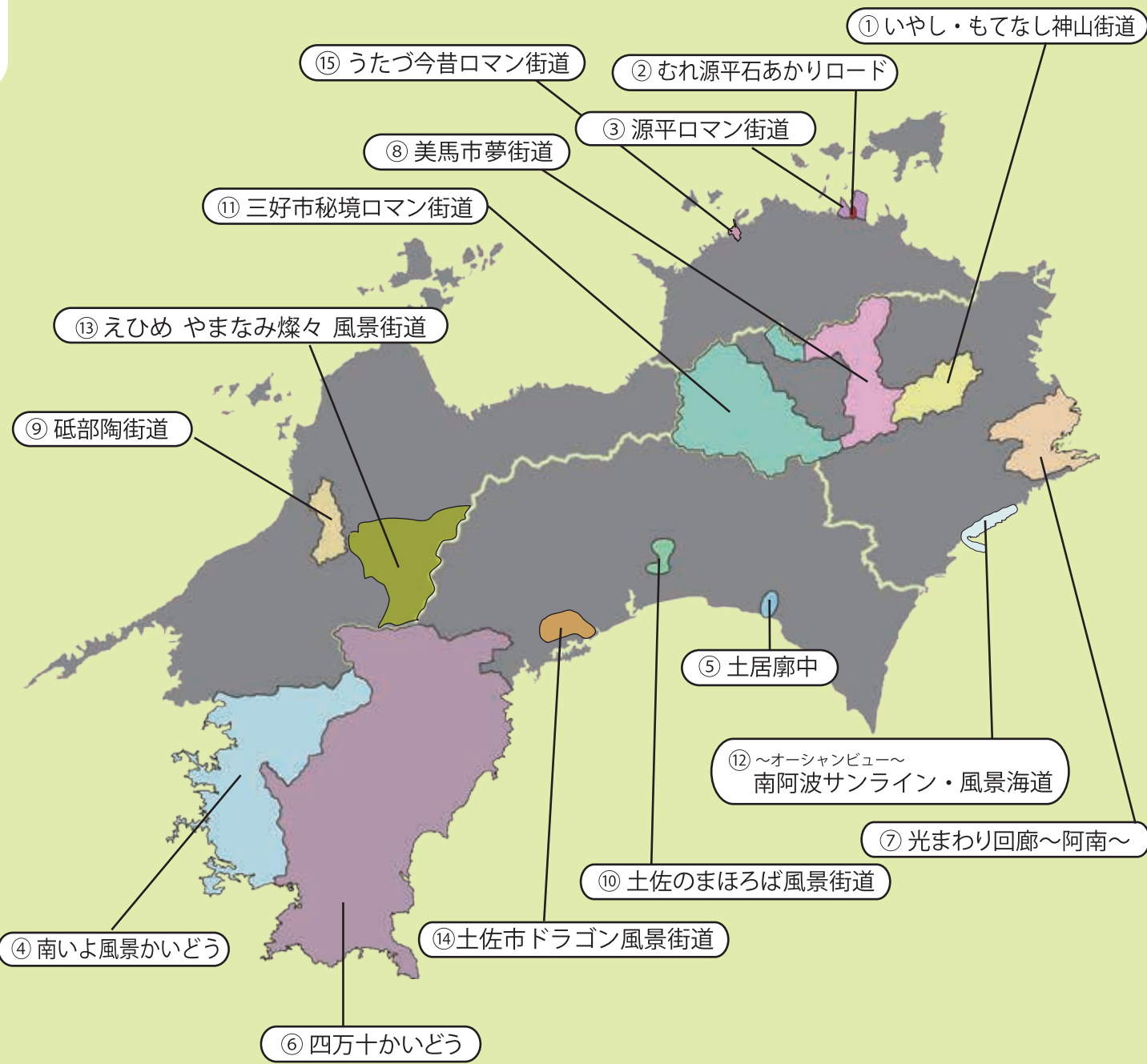
道は、さまざまな人や物、文化が交流する舞台です。そして道沿いの地域にはその地域ならではの自然、歴史、文化が息づいており、暮らしがあります。

風景街道は、道と沿道、その周辺を舞台として、地域住民の皆様・NPO法人・行政など多様な主体が協力しあい、地域ならではの自然、歴史、文化等の資源を活かして、美しい景観の形成、地域の活性化、観光の振興を図る取り組みです。その結果、かけがえのない日本の原風景や国土文化が維持、再興されることを目指します。



四国の風景街道に是非お越しください。

平成19年度に風景街道の登録が始まり、全国各地で様々な取組が行われています。四国では平成27年3月までに15ルートが登録されています。15ルートのそれぞれが個性を活かし、魅力あふれるルートとなっていますので、是非お越しください。



砥部焼の郷、焼物・自然・歴史を巡る道

町内に点在する自然・名所・旧跡・砥部焼に関する見どころを選定した「砥部焼道五十三次」。その一部は、平成13年、「新四国の里」の「砥部焼の里」の登録を受け、これまでも砥部焼コミュニティの設置をはじめ、様々な賑わいの創出などの活動を行ってきました。そして平成17年1月、旧砥部町と旧田代町の合併を機会に、さらに活動を拡大・発展させ、両町村を結ぶ国道33号、379号は、陶磁郷のまちをイメージする「砥部陶街道」と命名されました。活動では、魅力的な観光資源の創出、地域の活性化を目指し、住民、訪れる人々がともに魅力を感じる街道づくりを進めています。特に「砥部陶街道」沿いの53箇所自然・名所・旧跡・砥部焼に関する見どころ「陶街道五十三次」を巡るスタンプラリーは活動の目玉です。砥部町住民と行政など活動主体（風景街道パートナーシップ）となって「砥部陶街道パートナーシップ」を組織し、平成20年11月、「砥部陶街道」は、日本風景街道に登録されました。

特色

磁器でありながら、素朴で温もりのある砥部焼。砥部は古くから焼き物が盛んで、大湊藩の財政立て直しのため、安永年間（1772〜80）に陶器から磁器への転換が行われました。大湊なまきついでひびく唐草のオリシタルッチや青白磁など「砥部焼」としてイメージされる現在のスタイルは、昭和の民芸ブーム以降に確立しました。砥部焼は昭和51年、国の伝統的工芸品に指定され、窯元数も百軒ほどに増え、平成20年には国の伝統工芸士に認定されている人が20名を数えました。

陶里 砥部の五十三の見どころ ～陶街道五十三次～ スタンプラリー「砥部の里めぐり 陶街道五十三次」では、江戸時代に人々が東海道を旅したように、歩いて巡るもよし、車で巡るもよしの自由なスタンプラリーです。見どころは広域にわたっており、1回では回りきれませんので何日に分けても、興味を持った所だけ訪ねても結構です。順番も手段も自由、期間もないのでのおもむくまま自分流にお楽しみください。時間に関りのある人にはおすそめもモデルコースもあります。

取組

「砥部陶街道」では、スタンプラリーの他にも、陶街道検定、陶街道文化まつりなどのイベント、五十三次を結ぶルートの清掃、ボランティアによるサポートなどを行っており、住民、訪れる人々がともに魅力を感じる街道づくりに取り組んでいます。



- A 「砥部の里めぐり 陶街道五十三次」スタンプラリー実施・記念品プレゼント
B 「陶街道五十三次しらべ帖」冊子作成
C 砥部陶街道の標準設置（国道33号、379号）
D 「砥部焼まつり」開催（砥部町中央公民館、砥部町文化会館、峡の館など）
E 「広田ふるさとフェスタ」開催
F 「ウォークラリー大会」開催
G 清掃活動「アロード・ボランティア」実施（国道33号、379号）
H 国道33号中央分館に設置された砥部焼コミュニティ

活動主体・・・ 砥部陶街道パートナーシップ
活動の範囲・・・ 砥部町全域
中心となる道路・ 国道33号・379号
登録年月・・・ 平成20年11月

見どころ案内

陶街道五十三次にまつわる見どころ

砥部焼を体験



11 陶壁面と手水鉢（砥部焼陶芸館） [MAP:F-2]
砥部焼陶芸館では、窯元たちが伝統的技法を活かした手作りの良を感じてもらおうとトイレに砥部焼を施し、訪れる人の目を楽しませています。外壁、手水鉢などに陶工たちのおもてなしの気持ち込められています。館内では、絵付けや手びねりの体験もできます。
[所在地] 砥部町宮内83 [時 間] 8:30～17:00
[定休日] 年日 [1/1のみ休み] [連絡先] 089-962-3900

20 登窯（砥部焼観光センター炎の里） [MAP:F-3]
砥部の窯は初め、土や石で作られていましたが、嘉永元年（1848）に肥前と同じようにトンバリ（煉瓦石）で築かれるようになりまし。この登窯は昭和47年に築かれ、3つの窯が階段状に連なっています。今では春と秋の2回、作品の焼成を行っています。また観光センターでは絵付けや手びねりに挑戦できます。
[所在地] 砥部町千足359 [時 間] 8:30～18:00
[定休日] 12/31 [連絡先] 089-962-2070



59 農村工芸体験館 [MAP:C-6]
地元の木をふんだんに使った十二角形の印象的な建物に入ると、1階から2階までの吹き抜けが広がり開放感170年はある大きなスギの柱がそびえ立ちます。1階は体験室がありまびねりやぐるを使った成形と絵付けが体験できます。2階はギャラリーとなっており、宿泊施設も併設されています。
[所在地] 砥部町津津117 [時 間] 9:00～17:00
[定休日] 火曜日 [連絡先] 089-969-5087



40 梅山大登窯（梅野製陶所） [MAP:E-3]
障子山のふもとにたたずむ梅野製陶所（梅山窯）には明治15年の開業時に築かれた大登窯が保存され、公開されています。この窯は砥部に残る最大の登窯で、昭和35年まで使用されていました。平成3年に町の有形文化財に指定されています。
[所在地] 砥部町大南1441 [時 間] 18:05～16:50
[定休日] 不定休
[連絡先] 089-962-2311



45 砥部町陶芸創作館 [MAP:E-3]
窯元が軒を連ねる五本松地区にある砥部焼体験のできる施設です。徳利、マグカップ、茶碗など約100種類ある素焼きの中からお気に入りを選んで絵付けができます。また社士からの砥部焼つくりや陶器にオリシタルを埋め込むこともできます。
[所在地] 砥部町五本松82 [時 間] 9:00～17:00
[定休日] 木曜日（祝日の場合は翌日）
[連絡先] 089-962-6145

焼き物の里を散策



42 陶里ヶ丘 [MAP:E-3]
若手作家が多い窯業団地で、団地全体でアートを生み出し広げています。ギャラリーを併設している窯元が多いので、丘を散策して窯元めぐりをするのも楽しめます。
[所在地] 砥部町五本松885付近
[連絡先] 089-962-7288（商工課）



43 陶板の道 [MAP:F-3]
砥部町武道館（訓南館）の橋を出発点として陶祖ヶ丘を通り、砥部町陶芸創作館につながるアップダウンのある遊歩道です。全長500mの道の至る所に砥部焼の陶板（50枚）が敷き込まれています。町内の陶工が思い思いに絵付けした個性豊かな陶板をお楽しみください。
[所在地] 砥部町大南874先
[連絡先] 089-962-7288（商工課）



47 大宮八幡宮 [MAP:F-3]
熊谷や安産にご利益があり、千里城主だった大森家の祈願所にもなったという歴史のある神社です。商店街が立ち並ぶ一角に、突如として境内が広がり、樹齢300年以上になるイチョウやムク、ヒノキなどの大木が生い茂ります。
[所在地] 砥部町大南317
[連絡先] 089-962-2277

48 大南商店街モニュメント [MAP:F-3]
大南商店街の店先には56基の砥部焼のオブジェが点在しています。台座は磁石で、モニュメントはそれぞれの窯元の個性あふれるオリジナル作品です。アートの重なりあふれる景観が、まち歩きを楽しくさせてくれます。
[所在地] 砥部町商工会
[連絡先] 089-962-2148



砥部焼の歴史に触れる

57 川富神社 [MAP:E-4]
砥部川上流の川登地区に鎮座する川富神社は、伊予十城のひとつだった千里城主大森家（大森次郎左衛門の子、大森彦七が周城）の堂を合祀している。橋を渡る鳥居の間からぞくぞく朱塗りの屋根がときとび鮮やかに見える。
[所在地] 砥部町川登707
[連絡先] 089-962-2323（砥部町役場）



58 坪内家 [MAP:E-4]
江戸時代の終わりを、川登の水車業を一手に引き受けていた旧屋敷。川登の川西岸に建つ見事な屋敷は砥部焼の歴史を語る建物のひとつです。文政元年（1818）、川登陶石の発見により砥部焼の品質が改良され陶石砕業の重要が高まりました。そんな中、嘉永7年（1854）に坪内家は水車業を始めたのでした。
[所在地] 砥部町川登578
[連絡先] 089-962-7288（商工課）



41 砥石公園 [MAP:D-3]
専1台がやっと通れるほどの山道を登り、広場に到着すると大きく切り立った地肌が見えます。標高約260mの砥石山は、古くから全国的に有名な「伊予砥」（砥石）の産地で、砥石くずは砥部焼磁器創業の原料となりました。藩政時代には大湊藩の直営事業として採掘が行われ藩の財政を担っていました。ここが「砥部」の地名のおこりだという説もあります。
[所在地] 砥部町外山965
[連絡先] 089-962-2323（砥部町役場）

56 砥部焼伝統産業会館 [MAP:F-3]
砥部焼伝統産業会館は陶街道の中心的な拠点です。砥部焼の作品が一堂に会するミュージアムであり、また砥部焼の歴史など、砥部焼をさまざまな角度から紹介しています。
[所在地] 砥部町大南335
[時 間] 9:00～17:00
[定休日] 月曜日
[連絡先] 089-962-6600



焼き物の里が育む食

46 陶芸舎とふるさと生活館 [MAP:C-6]
陶石が産出される旧田代村。陶芸舎は昭和61年に旧田代村の焼き物の里づくりの拠点としてつくられました。陶芸舎の中田家を中心に全部で5軒の窯元があります。ふるさと生活館は地域の人が集まるところで、パウンドケーキ、佃煮などの商品を作る加工場として利用されています。ふるさと生活館の隣、農村食堂でぶしの家では、名物のたらいうどんが味わえます。
○陶芸舎
[所在地] 砥部町津津159-2 [時 間] 9:00～16:00（営業時間内見学可）
[定休日] 日曜日、祝日、第2・4土曜日それぞれ続く月曜日
[連絡先] 089-969-2077
○ふるさと館
[所在地] 砥部町津津159-1
[連絡先] 089-969-2111（広田交流センター）



49 初雪酒造資料館 [MAP:F-3]
明治20年創業の窯元です。建物内の一部を酒造りに関する資料館として開放しています。また、町内にある50軒以上の窯元が作った徳利と杯も展示しています。酒造りは1月から3月にかけて行う寒造りで、3月には実際にもろみを袋に入れて酒を搾る作業が見られます。
[所在地] 砥部町大南400 [時 間] 10:00～17:00
[定休日] 木曜日（祝日を除く）
[連絡先] 089-962-2717



50 手づくり醤油工場（佐川醸造） [MAP:E-3]
大正7年創業の砥部町唯一の醸造所。佐川醸造では昔ながらの木桶を使って伝統的な方法で作るというこだわりを貫いています。その結果、変わらない味が喜ばれます。今も「マルカメ」の名で地元の人たちに愛されています。
[所在地] 砥部町大南760-1 [時 間] 8:00～17:00
[定休日] 日曜日・祝日
[連絡先] 089-962-2031



陶里～砥部へようこそ～

県道松山市から国道33号線を南下し、重信川を越えると、磁器創業240年以上の歴史を誇る砥部焼の里「砥部町」に入ります。砥部町は、いにしへのロマンを感じる遺跡群や伝統文化・工芸など、現在・過去と未来が織りなからり織りなす「アートの里」です。

北部は、中央を流れる砥部川沿いに開けた南北に細長い地域で、江戸時代以降、焼き物の町として名をなしました。国の伝統的工芸品「砥部焼」（県の無形文化財）の産地で、80余りの窯元が焼き物の里の風情を出しています。また、西日本屈指の規模を誇る県立「とべ動物園」や遊びと創造のシンボル「えひめこどもの城」、県の総合運動公園などがあり、県の中心的存在となっています。

南部は豊かな森林資源や自然景観が美しい山間地域です。中央を走る玉谷川の流れがつくり出した仙波深谷や、清らかな水の源流、伊予の西石鎚とも呼ばれる権現山などの景勝地があり、初夏には川沿いで天然の源氏ホルタルが乱舞し、幻想的な世界を楽しむことができます。また、自然条件を活かした高原野菜や自然薯の栽培が盛んです。

砥部町では季節ごとに多様なイベントも開催されます。毎年2月20日から3月10日まで開催される「七折梅まつり」、「青いダイヤ」と称された七折小梅の産地であり、地区が管理する梅園には約16,000本の梅の花が見事に咲き開き、砥部の里に春の訪れを告げます。まつり期間中は、もちまきや梅の種飛ばし大会などのユニークな催しがあり、梅肉入りのたご焼きやコロケツなど、地域でしか食べられない食材も登場します。

毎年4月第3土・日に行われるのが、砥部町最大のイベント「砥部焼まつり」です。日用食器から花器など約10万点の砥部焼が感謝価格で販売され、毎年8万人を超える来場者で賑わいます。

夏には、町内各所でホテルを運営する「ほたるまつり」が開催され、7月からは陶街道32番「権現山」の休憩所で、清流を生かした流しそうめんが楽しめます。秋には、11月の第1土・日に砥部焼の陶工たち自らが露店形式で対面販売を行う「秋の砥部焼まつり」が開催されます。

また、山間に広がる広田地域では「広田ふるさとフェスタ」も開催され、高原野菜の販売やキャラクターショーなどが行われます。冬には、12月上旬に「自然薯まつり」が開かれます。陶街道27番「道の駅ひろろた峡の館」を会場に、地域特産の自然薯の即売や試食が行われます。

魅力いっぱいの風景街道「砥部陶街道」で楽しい1日をお楽しみいただきたいと思います。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



砥部町・砥部陶街道 イメージキャラクター「とべっちゃん」

砥部陶街道パートナーシップ
事務局：〒791-2195 砥部町宮内1392
砥部町企画政策課
TEL 089-962-7250 FAX 089-962-4277
E-mail 020kikaku@town.tobe.ehime.jp

15 とべ温泉湯砥里館 [MAP:F-3]
浴室に飾られた陶壁面を眺めながらゆっくり入浴できます。お湯は、肌をすべすべにさせる「美人の湯」として有名です。ガラス張りの浴室からは、砥部町総合公園を一望でき、開放感たっぷり。湯上がりには、休憩室や軽食コーナーでおくつろぎください。
[所在地] 砥部町宮内1902-3
[時 間] 10:00～22:00（21:30止まり）
[定休日] 毎月1・20日（土・日曜、祝日の場合は翌日）
[連絡先] 089-962-7200

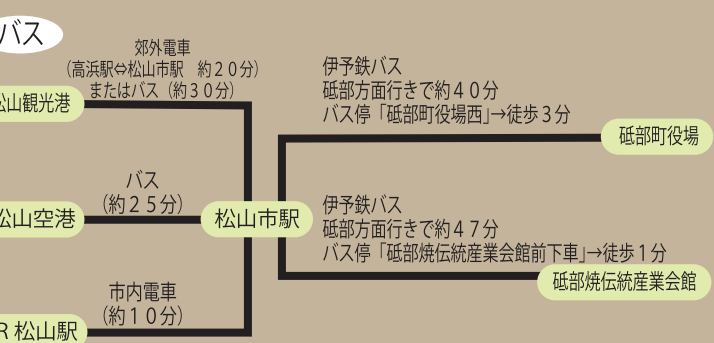


7 道の駅ひろろた「峡の館」 [MAP:C-6]
国道379号沿いにあり、そば立つやぐらが目印です。野菜や大豆、乾シイタケ、山菜の乾燥、自然薯（期間限定）など地元の特産品やふるさと生活館で作られた商品などが手軽に手に入ります。広田地域の窯元が作った砥部焼も販売し、器やユニークな焼き物の人形が揃います。
[所在地] 砥部町津津162-1
[時 間] 18:00～17:00
[定休日] 年未年未（12/31～1/3）
[連絡先] 089-969-2070



千足休憩所 [MAP:F-3]
国道33号と379号との交差点近くに位置し、まさに陶街道の要所となっています。南を眺めると美しい障子山を仰ぎ、裾野には砥部川がゆったりと流れています。砥部町の名所・旧跡を知ることのできる陶板、あずまややベンチなどがあり、憩いの場となっています。
[所在地] 砥部町千足
[連絡先] 089-962-2323（砥部町役場）

アクセス



バス
JR松山駅 約10分
松山ICから約25分
松山駅 約25分
松山ICから約25分
松山駅 約25分
松山ICから約25分
松山駅 約25分
松山ICから約25分



お問い合わせ先

四国風景街道協議会事務局 国土交通省 四国地方整備局 道路部地域道路課
〒760-8554 高松市 サポート3番33号 TEL: 087-851-8061 (代表)
http://www.skr.mlit.go.jp/road/shikoku-fukeiai/

